

読書でビジネス力をアップする(第6回)

世代論の教科書

2015.10.27



日本初! たった1冊で誰ともうまく付き合える世代論の教科書
阪本節郎著/原田曜平著
東洋経済新報社

若者はおやじたちのことを分らない、おやじたちも若者の考え方が分らない……。そんな世代間のギャップを埋めるために、それぞれの世代がどういう背景でどういった考えを持っているのか解説した本です。

企業の採用状況がよくないときには若者は“おやじたらし”にならなければなりません。部下との絆を深め、良いチームをつくっていくためにはおやじも“今の若者は分らん”などと嘆いてはいられません。そういったコミュニケーションの教科書として構成されています。

世代論を語る際は、どうしても書き手目線になりがちです。例えば著者がおやじ世代であれば、若者たちを語る際にどうしても“おやじ目線”になってしまいます。本書の特筆すべき点は、おやじ世代のパートはおやじ世代が執筆し、若い世代のパートは若い世代が執筆する共著の形をとっているところです。

もちろん、「今どきの若いやつらは……」とか「どうせ〇〇世代の感覚は……」など、決めつけはよくないケースはあります。しかし、「世の中が複雑化・細分化している現代だからこそ、まずは大ざっぱに人間を分類して大枠をつかむことが、かつて以上に重要になっているのではないか」と著者は述べています。

こうしたニーズに応える形で本書では現在20代前半から60代後半までを6つの世代にセグメントしています。当然、その世代に当てはまる自分の上司や部下を想像しながら読むことになるわけです。… 続きを読む